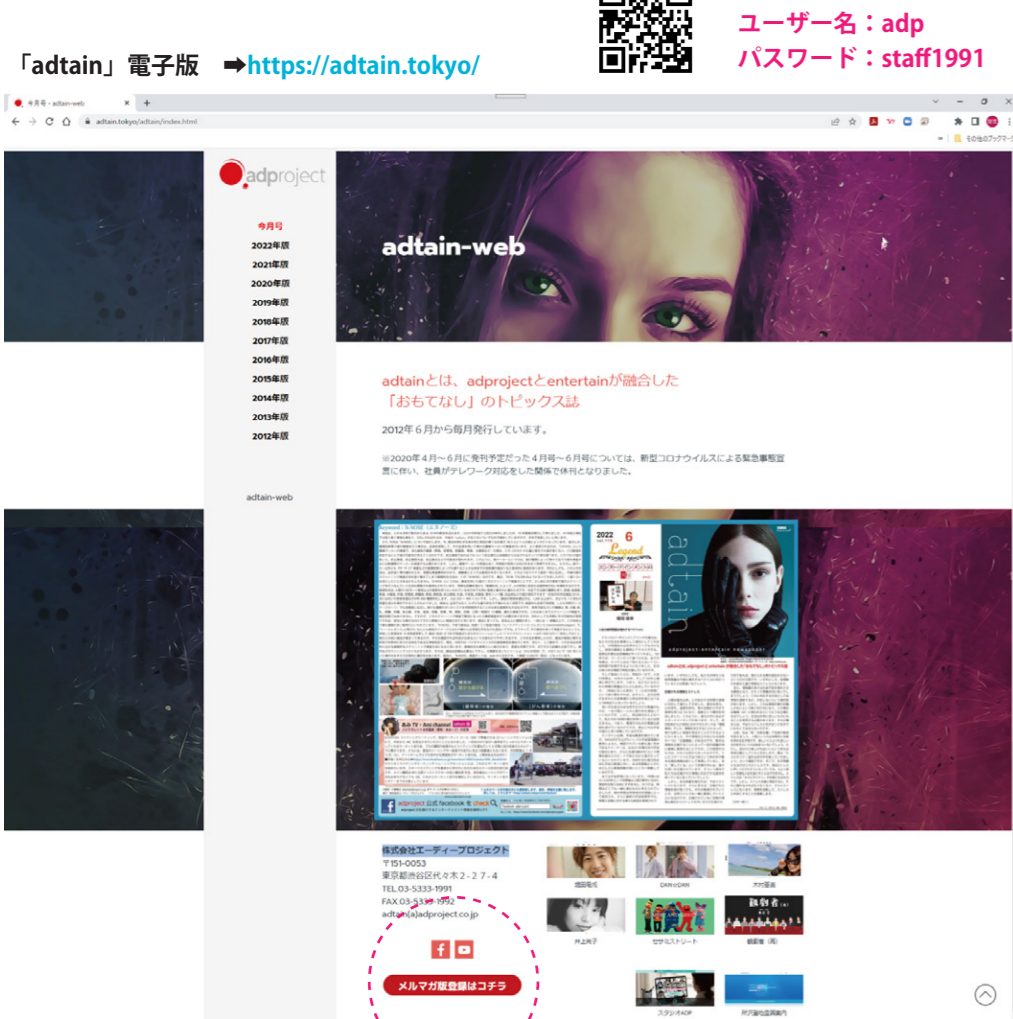


Keyword：最終号

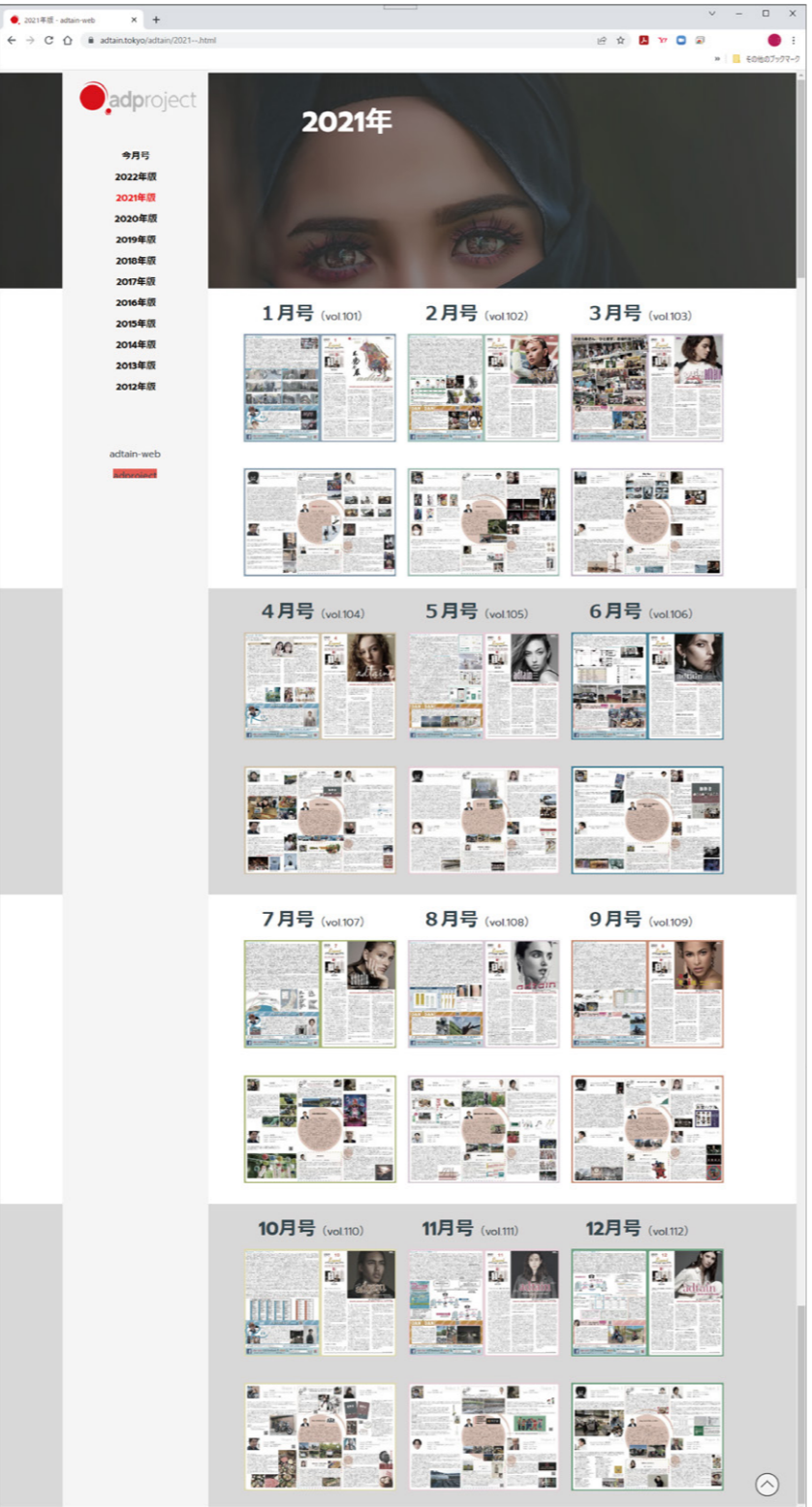
先月号でお伝えしました通り、創刊 10 年を迎えた本誌について、この先もこの形で存続させるか否かを検討致しました結果、紙ベースでの adtain は、ひとまずこの回で最終号とすることに致しました。今後につきましては、不定期にはなりますが、弊社のイベント等の開催のタイミングに合わせ、メルマガで配信して参りたいと思います。これまで、一般公開はしておりませんでした。本誌についても創刊翌年の 2013 年からはデジタル版も制作しており、社員のみ閲覧できるようにしておりました。この機会に、期間限定とはなりますが、これまで adtain をご愛読いただきました皆様へ、創刊号からの 10 年分の adtain を公開させていただきます。スマホでもご覧になれますが、タブレットか PC の方が見易いと思います。


またトップページの右下に、メルマガ版の登録ボタンを設置しましたので、今後もメールでの adtain の配信をご希望される方は、是非、申込みフォームからメールアドレスをご登録下さい。



こちらからご登録下さい。


長い間、本誌をご愛読いただきまして誠にありがとうございました。編集部一同、心より感謝申し上げます。引き続き、メルマガ版も宜しくお願い致します。 完





弊社所属タレント
堀田竜成

『ほりたりんぐ』 adtain 版



公式ホームページ

蒸し暑い季節になりましたね。堀田竜成です。最近是有難いことに忙しい日々が続いています。7月13日～16日まで舞台の本番があり、7月17日にDAN☆DANのワンマンライブがあるのですが、今は舞台のセリフを覚えたり、初めての本格的な殺陣稽古をしたり、路上ライブを各地で行ったりしています。僕が芸能を始めるにあたって、俳優と歌手の両立をしたい、その目標が叶ってきたのかなとすごく実感しています。先程忙しいとは言いましたが、心の底から本当に充実した日常を過ごせていると身に染みています。こう感じられるのも4年前。路上ライブを始めてから応援してくれている皆さん、そして舞台を見て応援してくれている皆さん、そして、この活動を支えてくださる皆さんのお陰で今の自分があるんだなって思います。この仕事を始めてすごく悩んだことも沢山あったりプライドがボロボロになることもあったけど、その経験もこれからは繋がる道標だったのかな。これからもっと成長できるように、謙虚で新鮮な気持ちを忘れず突き進んでいきたいです。不器用で未完成な僕ですが、これからもよろしく願います。笑顔の花さかせていこうね！



ご意見・ご感想は adtain@adproject.co.jp まで メールでお寄せください。
発行：株式会社エーディープロジェクト 〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-27-4
www.adproject.co.jp

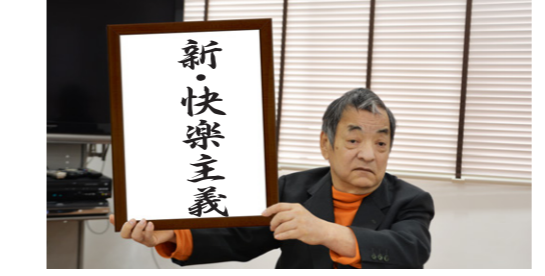
↑上のスペースを外部的にも開放致します。是非、寄稿をお願い致します。
詳しくは、こちらまで→<http://adtain.tokyo/contribution/>

adproject 公式 facebook を check
adproject がお届けするエンターテイメント情報を随時UP!!

皆様の いいね！ をお待ちしております。
facebook adproject 検索
もしくは、<https://www.facebook.com/adproject.japan>

2022 vol.119 **7**
Legend

エンターテインメントの **実行** その⑩最終話



創業者
榎垣 俊幸

二つの価値の必要性

今、さまざまな危機が叫ばれている中で、これまで「価値」とされていたものの崩壊が見られることになるでしょう。それは厳密に言えば「価値」の崩壊ではなく、「価値無きもの」が見えてくるということです。今、まだ多くの方が価値があると思っていることの中に、基本的に価値の無いものはたくさんあります。思想も含めてそうです。あるいは人間関係でも。さらに言えば、国家という概念、地方自治という概念、家庭という概念、夫婦という概念、人生という概念。こうした概念というのは、決して自然にできたものではありません。実はそうした概念を組み立てることを錬金術とする人たちがいたのです。これもやがて瓦解し本当の姿が明らかになるでしょう。

さて問題は、この情報洪水の中で、私たちはどのような生き様をしていくか。どのように暮らし、あるいは何を創造していかなければならないかということ。「どうせ借物」と割り切った上で、その人生の中で何を組み立てていくのか。この時、押さえていただきたいのは、何事に対しても二つの価値が必要だということです。例えば、私たちは人間であると同時に「男」あるいは「女」です。そういうと当たり前のようですが、人間であることの価値と男(女)であることの価値は微妙に食い違う部分があります。フランスの哲学者、ボーヴォワールは「女性は作られる」と言いましたが、子供を産むということ以外の男女の役割分担というのは、服装から言葉使いに至るまで人為的に作られたものです。そう決めた方が都合のいい人がいて、多くの連中がそこにハマったというだけの話ですが、それが「文化」というものなのです。

さらに、これからは二つの価値を併せ持つことが必要なのです。すなわち、「あの人は人間として素晴らしい。でも女性としても素晴らしい」。こんな光栄な褒め言葉はないでしょう。「人間として素晴らしい。男性としても素晴らしい」と、私もそう言われるようになりたいものです。



モデル：Rebecca / Height:156cm B:81 W:58 H:89
事務所：ARTRICK ENTERTAINMENT (アートリック) <http://artrick.com>

adtainとは、adprojectとentertainが融合した「おもてなし」のトピックス誌

物事には全て二つの側面があります。例えば、人間の肌が獣の様に毛で覆われていないのは、進化でもあるし、退化でもあるのです。「裏」と「表」といってもいいし、「陰」と「陽」といってもいいでしょう。どんな、モノ、コト、人、情報でも、必ず二つの価値をそこに見出すことができます。二つの価値を持てば、それだけ世界が広がるのです。人間関係で言えば、友好範囲が広がるということです。

エンターテインメントを実行するために

そこで大事なのは、自分の中に二人の自分を持つこと。例えば、若い娘さんが恋に悩んでいるとしましょう。「恋に悩んでいる自分」と「恋をさせてあげる自分」の二人を意識下に持つことです。

現代社会では、情報が非常にハマりやすい形に加工されて入ってきています。情報の持つ意味そのものよりも、まるで感覚に訴えてくるのです。しかし私は、それが悪いこととは思いません。原則として、ハマれるものにはどんどんハマればいいのです。ただ、その時、もう一人「ハマらせてあげている」自分をしっかり自分の中に確保しておくべきでしょう。これが21世紀の「バーチャル知的生活」の知恵なのです。

今は子供に限らず、誰もがテレビゲームやスマホゲームにハマっていますが、それが自然とこの訓練になっているかもしれません。「ゲームにハマっている自分」、「ゲームにハマらせている自分」。二人の自分を意識的

にコントロールする事が、非常に大切な時代になってきているのです。

これができるようになると、左脳の知識を右脳で創造活動に変化できるようになります。「知性が感性の領域に移行していく」ということです。これまで、「知性」というのは論理的思考を司る左脳の領域でしたが、それが人々の感性に伝わるように表現できてこなかったのです。これからは、表現できないものは「知的」とは呼ばれない時代になってきます。そこで、左脳の知識を右脳の創造活動に繋げていくことが不可欠なのです。すなわち、それがエンターテインメントの脳内作業です。

私が色々なクライアントを相手にプレゼンテーションを行うときも、「プレゼンテーションにハマっている自分」と「ハマらせている環境を作っている自分」の二人の自分が私の中にいる。これがアクセルとブレーキになり、常に微妙な調節を感覚的に行うのです。

エンターテインメントの原則は、自分が「楽しい」「面白い」と感じられるものに「ハマる」必要があるのです。この時「ハマらせている自分」をはっきり意識すること。自分だけハマって楽しい「享楽主義」と、他人と共に喜びを分かち合う「新・快樂主義」と私は区別しています。

エンターテインメントを実行するためには、まず人々に対しての「ホスピタリティ」を持つことと、思いやりのある「バーチャル知的生活」から実践していただきたい。

これが私からの最後のアドバイスです。(完)



木村 亜美

■ Title : アドベンチャー林道ツーリング in 北軽井沢

Project 1.

私の愛車、KTM150EXC TPIがお世話になっているKTM正規販売店、KTM 杉並(東京都杉並区)が開催する【アドベンチャー林道ツーリング in 北軽井沢】に参加しました。最初の目的地は群馬県のみかほ森林公園〜御荷鉾スーパー林道、そこから北軽井沢に向かって北上するように林道を繋いで走ります。長く楽しい道が延々と続き、最高に気持ちいい林道ツーリング。この日は軽井沢のホテルに宿泊し、鬼押温泉でゆっくりと身体を労り、美味しい夕食を楽しみます。2日目は万沢林道、ここは“万沢ストレート”が有名ですね。初めて見た万沢ストレートはもう圧巻で、感動したのを感じています。1泊2日で余裕のある行程、いろんな林道を巡り、広々ホテルでゆったりと過ごし、翌朝また気持ちよく林道を駆ける・・・、そんな贅沢なバイク旅を楽しみました。

■バイク情報番組【週刊バイクTV】(チバテレ)に出演中。毎週水曜日22:30〜、ぜひご覧ください! (※【他エリアでの放送】サンテレビ・とちぎテレビ・テレ玉・TOKYO MX (2022.7月現在)※放送時間等、詳細は各エリアのテレビ局へお問い合わせ下さい。)



EXECUTIVE VICE PRESIDENT : 横田 郁夫

■ Title : 暑い時こそプラネタリウム

Project 3.

このうだるような暑さの中皆さんはどのように涼んでいらっしゃいますか。子供の時にやったことがあったり、今は子供と一緒にやったという方も多いと思いますが、暑さを凌ぐ手段としてプラネタリウムもあるんです。涼しい中クライニングシートで満点の夜空を眺めるのは最高ですよ。出来れば恋人と行くのがおすすめです、私のように一人でも楽しめます。今都内ではコニカミノルタが提供している最新のマシーンを有する会場が3件あります。有楽町マリオンにある「プラネタリア TOKYO」池袋サンシャインシティにあるプラネタリウム満天」そしてスカイツリーにある「プラネタリウム天空」。私は3つとも行きましたが私の中ではプログラムが良かったのか池袋の満天が印象に残っています。まさに自分が宇宙と同化しているような印象でした。他にも日本科学未来館にある3Dプログラムはこれから行こうと思っています。感動して涼んでリラックスして少しくとうと。最近行かれてない方は迫力満点の最新映像に驚く事でしょう。何とんでも肉眼で見る夜空より鮮明に遠くまで観えてしまうのですから。それからプログラムによっては星空だけではなく、花火大会や花見の映像も一緒に流して映像鑑賞も出来るみたいです。是非今年の夏はプラネタリウムで楽しんで下さい。



舞台『処女のままだめやつなっていない、みんな世の中にやられちゃうからな』
 エーディープロジェクトとサンライズプロモーション東京で共催した舞台
好評を博し惜しまれつつ閉幕
 公式サイト : <https://mamanai.com>

EXECUTIVE PRODUCER : 岩澤 はやと

Producers's column

7/1(金)〜7/7(木) 演劇ジャンルの人気記事ランキングTOP5

【1】中村七之助、17年ぶりの『七月大歌舞伎』へー大尊敬する松本幸四郎との共演、大阪で演じる江戸っ子と京都人のバトルに心躍らせる
<https://spice.eplus.jp/articles/303339>

【2】舞台『処女のままだめやつなっていない、みんな世の中にやられちゃうからな』開幕キャストコメントが到着
<https://spice.eplus.jp/articles/304881>

【3】三谷幸喜 作・演出『ショウ・マスト・ゴー・オン』に鈴木京香、尾上松也、ウエンツ瑛士、シルビア・グラブ、浅野和之ら総勢16名のキャストが決定
<https://spice.eplus.jp/articles/305001>

【4】大阪で『七月大歌舞伎』開幕——『嵐の部』アクロバティックな演出で沸かせ、中村勘九郎が笑いの渦に巻き込んだ初日公演
<https://spice.eplus.jp/articles/304994>

【5】山崎貴三郎主演ミュージカル『ファインディング・ネバーランド』演田めぐみ、武田真治、夢咲ねね、辻あきの出演が決定
<https://spice.eplus.jp/articles/304917>

演劇ジャンルの人気記事ランキングTOP5

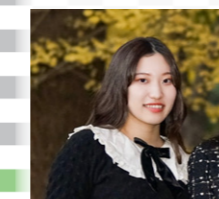
7月1日〜7日の週で、なんと本作品の記事が堂々の第2位！
 驚きのニュースが飛び込んで来ました！



2022年下半期

PRESIDENT : 檜垣 俊吾

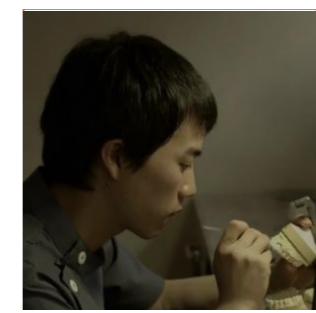
2022年7月になり、ロシア/ウクライナ戦争、137円を超える円安と、世界は1年前には誰も想像していなかった環境となっている。一方でコロナは消滅しないにしても、ようやくインバウンド再開や自粛圧力の緩和が始まっている。この数年の波は、従来型の経済全体を落込ませる危機ではなく、2021年は、巣ごもり消費やリモート対応に成功した企業に、そして2022年は輸出を中心に円安が追い風となる大企業に、史上空前の利益をもたらす結果となっている。2022年下半期から2023年に向け、どんなビジネスチャンスがあるのか日々私自身考えているが、日々の仕事に追われこなすだけでなく、社員一人一人を考えて欲しい。自分のクライアント周りでのどのような影響が生じるか、その結果、どんな人がどんなことに困ることになるかをイメージをする。それがビジネスチャンスです。夏に向けて、日本経済にも明るいニュースが出てくると思う。「日本はもうダメだから海外に行こう」「頑張っても無駄だからやめよう」という論調がもてはやされる今ですが、再生が始まった今は、クライアントと共に新しいことにチャレンジする良いタイミングだと思う。頭を柔らかく、次の作戦を持って、今年後半も挑戦を続けてほしい！



初出張

第4プロジェクト 中井 萌永

6月、人生で初めての出張に行ってきました。
 仙台の調理師学校の学生の皆さんに向けて、米国ポテト協会の主催で、米国産ポテトの需要拡大・PRを目的とした講習会を行いました。
 アメリカでは、次世代の調理師学生や新人調理人をヤングシェフと総称し、将来を囑望されています。この講習会では、そのヤングシェフに向けて、米国産ポテトの栄養価やコストパフォーマンスの高さ等、優位性の訴求をプレゼン後、ゲストシェフによる実演セミナーを行いました。学生の皆さんも熱心に講習会を受けており、大成功に終わりました。ヤングシェフに向けた活動は、今後も継続していきますので、更に企画を深めていきたいです。
 そして、仙台も人生で初めてでしたが、牛タン、パフンウニとほやを食べました。短い時間でしたが、仙台を堪能できました。



土井 晃範

■ Event : Hello! セサミストリートの世界展

■ Date : 2022年8月17日(水)〜8月29日(月)

■ Place : 阪神梅田本店 8階催事場

Project 2.

既にご存知の方もいらっしゃると思いますが、「adain」は今回が最終号となります。私が入社した時には既にスタートしてしまっていたので、私自身は6年弱のお付き合いとなりましたが、お忙しい中でも目を通してくださった皆様ありがとうございました！最後の「adain」ということで、弊社の中で誰よりも沢山の方に愛されている【セサミストリート】について、お話をさせて頂こうと思っております。

弊社は現在セサミストリートの着ぐるみを扱っておりまして、商業施設などを始めとした様々な場所を盛り上げ、また沢山の人に笑顔を届けてまいりました。セサミストリートの魅力を体感出来る展覧会イベントが、来月、大阪で開催されます。もし、お時間がございましたら是非ご来場ください。



Hello! An Exhibition All About Sesame Street

イベントの詳細は <https://www.hello-sesamestreet.com> よりご確認ください。セサミストリート含めて、これからも末永くよろしくお願致します！ありがとうございました！！



PRODUCER : 岩下 信而

■ Title : When I'm Sixty-Four

■ Date : 2022年7月

Project 4.

本号で、印刷物としてのadainは最終号となるようだ。創業者、故・檜垣俊幸の本誌への想いや、創刊に至るまでの経緯は、先月号の松延の名文がすべてを物語っている。未読で、ご興味のある方は編集担当阪本へお問い合わせください。

ぼくが本誌に関わるきっかけも書き残しておきたい。ある夜、いつものように唐突に、檜垣さんに呼びだされ、「んー、あのさあ、発行するからね(註1)」「いいじゃないですか！」(註2)「でさー、『箸休め』書いてね、うちは俊吾(現社長)も松延も、くそ真面目だから、楽しいやつね。…で、今日俺たち何食べるの？」(註3)蛇足であるが、「箸休め」とは、メイン料理の途中で、気分転換かつメインが引き立つように提供される、小品料理のことで、転じて「余談」を指すこともある。刺身のつまとは違いうし、タブレット純の名曲「♪行け！人造バラン♪」に歌われている、弁当に入っている緑色の仕切りでもない。ぼくが描いた「箸休め」は、読み物でいえば、東海林さだおさんの「タンマ君」、エンタメでいえば、演芸の「色物」(落語と落語の間に演じる漫才、マジックなど)、ロックでいえば、アルバムを3分以上聞き続けたB面の2曲目あたりの、鼻歌が口ずさめるような作品である。ビートルズなら「Sgt Pepper's Lonely Hearts Club Band」の(1967)の「When I'm Sixty-Four」。当時インド音楽にかぶれていた、ジョージのシタールを聞き疲れた後の、B面の2曲目。クラリネットのイントロが流れ、「ずっと先の話だけど、ぼくが年をとって髪が抜けても、ぼくが64歳になっても、誕生日やヴァレンタインのプレゼントをくれる？そしてぼくを必要としてくれる？」ポールが10代に作ったヴォードビルの傑作です。ロマンチックな歌詞が、すっかりシュールに響くお年頃になりました。では、来月以降も、末永く弊社をよろしくお願いたします、Ciao!

註1) 小理屈をこねる部下に反論を許さない巧みな話術
 註2) B型の上司には、ポジティブに呼応するべし
 註3) 業務終了と同時に、自己快楽を求めるスーパー・ヘドニストであった

